



- コラボヨハネ（ヨハネ会医療と介護の連携チームの愛称）
  - ・ヨハネ会支援パンフレットの作成
- 重度認知症の方への食の支援
  - ・認知症が重度化すると寝たきりに移行し、食事の自力摂取が困難となります。そこで、栄養士、看護師、介護員が協働し最期まで口から食事が摂れるよう食事の内容、食種、食具、摂取方法を多職種で検討し対応しています。

#### 【質疑応答・感想】

- C様：DIYで飾り棚をリペアしたり、収納ボックスづくりにチャレンジしているのはすごい。
- センター長：菜園でトマトやきゅうりなどを育て収穫して、ご利用者と一緒に調理する試みがきっかけだった。今を生きているライブ感覚があり、これを実感したり共感したりして、支援につなげることが大事だと感じた。他にもライブ感のある取り組みをしたいと考え、さくらんぼルームでの取り組みにつながった。

#### 3. 「みんなの安心・ささえ愛ネットワーク」の取組報告

- ①認知症高齢者の徘徊探索「みまもりあい」の模擬訓練は、現在「かくれんぼ」という名称で全国規模で行われている。
- ②けやき通りでの「かくれんぼ」は商店街グランプリで「優秀賞」を受賞。
- ③商業者向けのリーフレット「お元気ですか！」をママボノチームとともに作成。

#### 【補足説明】

- C様：自助、共助、公助の中で共助が1番軽視されてきた。住民福祉に力を入れて共助をしていく必要がある。共助をよびかけていくリーフレットになった。街に愛着を持ちながら福祉と商業の垣根をとっぴらった取り組み。日本で初。人間関係を商業の人と一緒に作り上げている。

→センター長

ささえ愛ネットワークの取組みはとても画期的なこと。どこが画期的かということ、今までは業種の垣根を超える取り組みが無かったのだが、それにチャレンジしたところ、多くの仲間が集まり共感の輪が広がったということだ。町会が高齢化して若い人がなかなか活動に参加しない、商店会も同じ、福祉は福祉で狭い世界で自己完結的に話をしている。こうした状況を俯瞰すると、それぞれに限界がきていることが良く分かる。垣根を超えて地域で生活者が困っていることに取り組んでいけるよう、包括圏域ごとに協力する体制ができることは、町づくりそのものである。

#### 4. 意見交換

- B様
 

母の良い笑顔が見ることができて良かった。長年家事をしてきたが、今は家事をするには常についていないと難しい。センターで調理の機会が持てるのはすばらしく、有難いと思う。自分にとって本町センターはなくてはならないものだが、母にとってもそうなってほしい。

- A様  
ホームページを拝見し、(昔の)父だったら器用だし、色々なことが出来ただろうになぁと感慨深い。今は施設に入所してしまったが、頑固だった父が他の皆さんと一緒に食事をしたり介護を受けられるようになったのも、本町センターでお世話になったおかげと感謝している。
- D様  
本町センターでのボランティアが愉しみの一つになっている。勉強する機会になっているので元気なうちは通い続けたい。先日、町会で地域の防災のことを話した。町会もセンターに協力できることは引き続き行っていきたい。  
→本町センターでも毎月防災訓練を行っているが、今年度から認知症デイでも防災訓練に取り組み始めた。階段で降りるので、職員が担架の練習をしたり、車椅子で階段を降りる方法等を検討している。今後も安全に過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。
- 包括センター  
「ちょこっとボランティア会議」という地域の課題とできることについて考える会議を毎月行っている。少しずつ地域で自分達の生活や福祉について考える機会が増えていると感じている。

## 5. 情報提供

- みんなの安心・ささえ愛ネットの紹介
- きた通信春号
- 聖ヨハネ会の支援パンフレット
- 小金井春めぐりイベント一覧
- かわら版まるん通信 (小金井まちおこし協会)
- 小金井桜まつりの紹介

## 6. 閉会の挨拶

7. 次回開催予定      2019年9月9日(月) 14時半～

以上